

to the Kingdom of Tonga

邑楽町からトンガ王国へ

町からは伝統芸能やトンガ王国国歌の合唱などが贈られ、トンガ王国からはラグビーの実演や伝統歌のコーラスが披露されました。



to Ora Town

トンガ王国から邑楽町へ

▶元日本代表選手のホラニ龍コリアシさん(現パナソニックラグビーコーチ)も解説として参加



◀中央公民館に特設されたトンガ王国紹介ブースでは、トンガ王国の歴史や文化の紹介パネル、民族衣装、民芸品などが展示されました

▼式典当日はトンガ王国国王の親族の誕生日でもありました。そのため、この日はトンガ王国の王族を祝福する歌が披露されました



▶ホストタウン決定後のシンボルフラッグ



交わる互いの文化

11月13日、中央公民館「邑の森ホール」で町が目指す共生社会の取り組みの一環として、トンガ王国との文化交流セレモニーを開催しました。

互いの文化を披露

セレモニーの前半ではアトラクションを実施。邑楽町、そして日本文化の紹介として和太鼓や郷土芸能、町文化財である中野耕のファッションショーなどが披露されました。

トンガ王国からはNPO法人日本トンガ友好協会の皆さんによる伝統歌のコーラスや、トンガ王国の国技であるラグビーの実演が披露され、間近での迫力を体験した会場の参加者からは歓声が上がりました。

初の大規模交流イベント。トンガ王国特命全権大使をはじめとしたトンガ王国関係者を町にお招きし、お互いの文化を知り交流を深めることを目的とした文化交流セレモニーを開催しました。

今回はホストタウンに登録決定後、初の大規模交流イベント。トンガ王国特命全権大使をはじめとしたトンガ王国関係者を町にお招きし、お互いの文化を知り交流を深めることを目的とした文化交流セレモニーを開催しました。

町では、これまで共生社会の実現に向けた取り組みとして、トンガ王国とのさまざまな交流事業を進めてきました。

そうした取り組みが評価され、今年の3月30日にはトンガ王国のホストタウン、そして共生社会ホストタウンとして国から正式に認定されました。



▲来場者には、シンボルフラッグがあしらわれたエコバッグをプレゼント。タオルやクリアファイルなどの記念品も贈られました



▲晴天の下、開催された文化交流セレモニー開場時の様子。当日は町民やトンガ王国の関係者を含め約360人が参加しました

トンガ王国大使から邑楽町の皆様へ

本日トンガ王国と邑楽町の交流を記念する式典に皆様と出席できることを大変うれしく思うと共に、このようにお話をさせていただく機会を賜り光栄に存じます。

この式典は、トンガ王国と日本の友好を深める一歩になります。トンガ王国政府はその取り組みとつながりを心から祝福し、共通の目標を達成するために、邑楽町と日本トンガ友好協会を支援します。

また、今年の東京2020パラリンピック競技大会において、邑楽町のトンガチームの招致の取り組みに感謝したいと思います。コロナの感染拡大により、残念ながら選手がパラリンピックに参加することは叶いませんでしたが、邑楽町が目指す『全てのの人にやさしい町づくり』の推進のために、共生社会ホストタウンのパートナーとしてご協力をさせていただきたいと思います。

～大使祝辞より一部抜粋～



トンガ王国特命全権大使
テヴィタ・スカ・マンギシさん



▲トンガ王国からいただいた民芸品のうちわと国章のエンブレム

▲町から贈った記念プレートと中野耕があらわれたポーチ

手紙にのせた子どもたちの思い



▲子どもたちの思いが詰まった手紙

町内の小中学校では、トンガ王国との交流と外国語学習の一環として、東京オリンピック・パラリンピック出場のトンガ王国選手や、同国の子どもたちに宛てた手紙を書きました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、トンガ王国全土がロックダウン状態にあり、手紙を届けることができませんでした。そこで、今回のセレモニーでトンガ王国大使に直接手紙を託すことになりました。式典では各校代表の児童生徒が英語と日本語で手紙を発表し、一人ずつ大使に手紙を手渡しました。大使は子どもたちが発表する姿を見ながら何度もうなずき、笑顔で手紙を受け取りました。



トンガ王国・邑楽町文化交流セレモニー



互いに交わす友好の証

セレモニーの後半では金子正一町長の式辞に始まり、トンガ王国大使をはじめとした来賓の祝辞、記念品の贈呈が行われました。



▲感謝状を受け取るラトゥさん。町とトンガ王国との連絡調整の他にも、トンガ王国紹介動画への出演などで町に協力していただきました



特定非営利活動法人
日本トンガ友好協会代表
ラトゥ
ウィリアム志南利さん

ホストタウン功労者表彰
ホストタウンの交流推進に貢献した人に贈られる国からの感謝状。町から推薦した2人が受賞しました。一人はNPO法人日本トンガ友好協会の代表として、トンガ王国とのパイプ役を担ったラトゥさん。もう一人は昨年の交流セレモニーで資料提供などで協力してくれた有馬さん。式典では国からの感謝状を金子町長が代読し、ラトゥさんに渡されました。都合により欠席した有馬さんからは「他者への愛を大切にすること、トンガ王国と、思いやりあふれる共生社会を目指す邑楽町の心温かい事業に、微力ながら携わらせていただくことができ大変光栄に思います」とメッセージをいただきました。

▶町で実施した『トンガ王国を知る講座』で講師を務めてくれた有馬さん。トンガ王国の歴史や文化などを解説してくれました



JICA青年海外協力隊で
トンガ王国に派遣従事
有馬里実さん



桐生第一高校ラグビー部のメンバーとして 全国高校ラグビー大会に出場



ナモア・ファタフェヒさん（前原・4区）

桐生第一高校2年。県予選大会ではナンバー8として活躍。「チームの勝利のために、自分にできることを出し尽くしたい」と全国大会への意気込みを語りました。

もうひとりの功労者 故ナモア・ワテソニさん

トンガ王国と交流を始めるきっかけをつくってくれたのが町内に在住していたナモアさんでした。ナモアさんは町とトンガ王国の友好関係の発展を担ってくれた他にも、ラグビー教室の講師を務め、町のスポーツ推進にも尽力しました。そんなナモアさんの長男、ナモア・ファタフェヒさんは今、高校ラグビーで活躍しています。ファタフェヒさんは「自分の住んでいる町と出身国が交流をしているのは本当にうれしい。今後も交流を続けてほしいです」と話しました。

